

区民が体験した戦争戦災証言記録集を区HPで公開

終戦から70年。戦争の悲劇は二度と繰り返してはならず、風化させることなく後世に伝えていかなくてはならないものです。しかし、戦争を体験している人の数は年々少なくなり、その生の声を語り継ぐことが難しくなっています。そこで、区では昨年、区民に協力を呼びかけ、70年前の記憶を1冊の証言記録集としてまとめ、今年3月末に発行しました。証言だけでなく、空襲などの資料も掲載しもので、より多くの方に活用してもらおうと、本日から区ホームページでも公開を始めました。

昭和20年8月15日の終戦から70年の年月が経過し、戦争体験者の多くが80代以上の高齢になっています。戦争末期の昭和19年以降は、東京は空襲により多くの人命を失いました。杉並区内でも、高円寺地区や方南地区などには焼夷弾が投下され、広い地域が焼失しました。

杉並区の空襲による被害は、死者181名、負傷者611名、行方不明者4名で、家屋の全焼は1万1千棟以上に上りました。東京都全域の人口は、昭和19年2月の約656万人から、終戦直前の昭和20年6月では約254万人となり、なんと6割の人口減少となりました。杉並区では、比較的区内に住み続ける住民が多く、3割の減少でしたが、空襲が続く中、人々が安全な場所を求めていることを物語っています。



今回作成した戦後70年の証言記録集には、こうした戦争の記録が写真や年表などで掲載されているほか、区民から寄せられた戦争の記憶を紹介しています。証言者は、80～90代になっており、しかも70年前の記憶を呼び覚ます訳ですが、どなたも鮮明に当時の恐怖や空腹、そして淡い青春の思い出を語っています。エッセイストの吉沢久子さんも証言者の一人で、モンペ姿で竹槍訓練をした思い出などを証言しています。

証言記録集は、区立図書館で貸出を行うとともに、区役所区政資料室にて1冊400円で有償販売を行っています。また、区公式ホームページでも内容をご覧になることができます。

【問い合わせ先】

区民生活部管理課：03-3312-2111 内線3753